

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホームひまわりの丘 (1F ひまわりユニット)		
所在地	小樽市住吉町5番22号		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0172000655-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりの丘は、小樽総鎮守の住吉神社の側にあり、近所には小樽運河やオルゴール堂など小樽を代表する観光名所があり、大変賑やかな地域にあります。また、市立病院や協会病院といった総合病院が徒歩圏内にある為、安心して生活が出来る環境になっています。一人ひとりの意思や尊厳を大切に、家庭的で楽しく、安らぎのある生活が送れるよう、利用者様と職員が共に支えています。利用者様、そのご家族の方がいつも安心して生活が送れるよう、職員一同サービスの向上に努めています。また、津波や土砂災害の想定エリアではなく、安全な立地になっており、地震や火災等の災害発生時の避難所が徒歩数分の場所にあります。今年度から、外国人の特定技能実習生受け入れを予定しており、介護人材不足を抱える地域のモデルケースとして取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひまわりの丘」は、JR南小樽駅から徒歩で数分の住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。近隣には多くの観光名所や総合病院もあり、生活の利便性に優れている。開放感のある居間や食堂を中心に居室が配置された造りで、壁には利用者と一緒に制作したクリスマスツリーや行事のポスター、利用者の写真などが掲示されている。管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの得意なことや残存能力を活かしながらすべての生活面において温かく見守り、適切な個別支援を行っている。地域交流や市町村との連携として、地域の総合病院が中心となり異業種の様々な事業所が一体となって地域づくりを行う取り組みに参加し、介護相談など専門的立場で地域に貢献している。理念を基に「職員5原則」を作成することで、全職員が理念への理解を更に深め日々実践に努めている。外出支援では、感染症対策に配慮しながらドライブに出かけたり、馴染みの美容室などへの外出支援も継続している。食事面では、利用者の誕生日当日にお祝いしたり、毎月利用者の好きなお楽しみ献立や季節を感じる果ご飯など、食事が楽しめるように工夫している。管理者は、計画的な研修で職員教育を行うと共に、各職員の意見や提案を多方面に活かして働きやすい職場環境を整備し、前向きに運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入社時に、事業所の理念を伝え日々実践していけるように指導している。また、常に目にするところに掲げ、職員全員で共有し日々のサービス提供に繋げている。	「地域で暮らす一人として、家庭的で楽しく」という地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関やユニットに掲示し、職員採用時や会議の中で確認している。今年度は、理念を基に新たに「職員5原則」を作成して毎朝唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、季節ごとの行事に利用者や職員で参加している。感染症流行により行事自体が開催されていないが、回覧板等で町内活動の内容を把握している。	感染症の流行により地域交流は少なかったが、管理者が町内会議に出席したり、近隣住民から除雪の手伝いを受けている。歌と体操のボランティアや敬老の日には二胡演奏者が訪れて利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターで開催しているオレンジカフェ内に認知症相談コーナーを設置し、地域の方に対し、グループホームの概要や、認知症の初期症状についての説明会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回、運営推進会議を開催し、行政職員、町内会、ご家族に運営状況を報告し、ご意見や助言を参考にサービス向上に努めている。感染症流行により、今年度は書面での案内になっているが、流行状況に留意し、人数の制限等と決め、開催を予定している。	感染症流行のため、書面会議を開催して事業所状況を議事録にまとめ、利用者の写真を添えて全家族に送付している。会議開催時はテーマを設定して資料も添付していたが、書面会議では報告が中心となっている。	書面会議の場合も家族の意見や質問を収集して会議に活かしたり、役立つ情報を資料などで提供できるよう期待したい。また、会議開催時は全家族に会議案内を送付し、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1か月に1回必ず、運営状況の実績報告を行っている。その際に、事業所で取り組んでいきたい事について相談し助言等を行っている。(例、特定技能実習生の受け入れについて、AIを活用した介護記録についてなど)	市役所の実地指導時に情報交換したり、加算算定や特定技能実習生の受け入れなどを相談している。管理者は可能な限り書類を持参して担当者と顔を合わせて話し、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、高齢者虐待に関する研修会を年2回以上開催し、職員の理解に努めている。毎月開催している委員会活動時に、不適切な対応に繋がる行為が無いかどうかを話し合い、意識付けを常に行っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、職員採用時や内部研修で確認している。毎月、身体拘束委員会を開催している。転落防止策としてのベッド柵使用も不適切と判断し、職員間で見守りを重視することで身体拘束につながらない対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している委員会会議で、各ユニットの支援内容の確認を行い、虐待の防止に努めている。虐待防止の理解や職員一人一人が共通の認識をもつよう勉強会を行っている。また、職員の状態を観察し虐待に繋がることのないか、環境面やケアの内容を検討している。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、職員研修で学ぶ機会を作っています。また、ご家族のいない利用者についてを後見人センターに相談したり、活用に繋がる取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、本人やご家族に対し、契約書や重要事項説明書に沿って説明しています。その際に、事業所が出来る事や出来ないことを明確にし、理解や納得をしてもらってから契約を行うよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、利用者から意見や要望を聞いています。ご家族については、面会制限等で聞く機会が少ない状況ではありますが、電話連絡に意見を聞く機会をつくるよう努めている。	来訪時や電話で家族の意見や要望を聞き取り、連絡ノートや支援経過記録に記入している。写真を送る時にメッセージを添えることもあるが、現在は定期的なお便りは発行していない。	各利用者の様子を伝えるお便りやメッセージを添えた写真などを定期的に家族に送付するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	6か月に一回職員面談を行い、自己の振り返り、今後の目標、運営に関する提案事項の聞き取りを行っている。その他、日々の様子で変わりがあった際や、他の職員からの報告があった際に都度面談の機会をつくり、相談事や困り事について聞くよう取り組んでいる。	管理者は、年2回の個人面談と給料明細書を渡す時に個別に話をしている。職員の提案を受けて負担の多い除雪担当者のシフトを調整するなど、その都度話し合って改善している。職員は利用者担当や環境整備、行事などの役割を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6か月に一度の面談を基に、人事考課を行い処遇の改善等に努めている。また、一人ひとりの働き方や、有給休暇の取得が取りやすい環境づくりを行っている。今年度から「健康宣言」に登録し、健康に働くことが出来る環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回内部研修を行い、職員の知識向上に努めている。また、日常の業務内でもすぐに答えを出すのではなく、一人ひとりに考える機会を作る取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症流行により、外部研修や相互訪問の機会がなく交流をすることが出来ない状況だが、介護新聞を休憩室に置き、誰でも見れる環境にしている。また、脳外科の医師や認知症研究の教授を事業所へお呼びし研修会を開催するなど取り組んでいる。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談による本人の会話や、ご家族から本人の思いや要望、困りごと等の話をよく聞き、安心してもらえる関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いの際に、入居を考えた経緯や入居してからの心配事等について話を聞き、安心してもらえる関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、把握した状況や要望により、柔軟な対応がとれるよう努め、要望に合わせた支援内容の提案や体制を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている日常生活を共に支えあう関係性に基づき、食事の準備や片付け、掃除や洗濯等を一緒に行ったり、共同生活者としての認識を持ち、行事やレクリエーション活動を通して、感情の共有が出来る関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をご家族に報告や相談をし、課題の解決策をご家族と共に考えている。現在は、面会の制限を行っているが、面会の際は、本人、ご家族や職員と一緒に話をしたり、ご家族と外出等をした際の様子を聞き、情報共有を行うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を得て、馴染みのお店の利用等が出来るように取り組んでいる。感染症の流行があり、面会の際は、ガラス越しで行ってもらったりと関係性が途切れないよう工夫している。	職員や家族の送迎で、馴染みの美容室や専門店に外出している利用者もいる。知人からハガキが届いて返事を書いたり、電話で話をする利用者もいる。家族と外食やお寺、お墓参りなどに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員間で情報共有している。日常的に座る位置や、行事等で座る位置についても注意し、関係が円滑にいくよう調整役になっている。利用者の感情を察知し、対応することで穏やかに暮らせるよう支援している。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、他のサービスに移行する時は、安心した生活が継続できるよう、事細かい情報提供を行っている。ご家族に対しては、地域住民として関係性を継続していけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりの中で、会話や表情などから希望や意向等の把握に努めている。意思表示困難な場合は、ご家族等に聞き取りながら、本人本位の以降に沿うようにしている。	会話や日常の様子から思いや意向を把握している。基本情報シートと課題分析シートの項目に沿って趣味や嗜好を記入しているが、更に見やすく記録を整理することも考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人やご家族から生活歴の情報を伺い、入居後も生活を通して、把握し理解できるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、心身の状態や様子の把握に努めている。職員全員が利用者一人ひとりを理解することで本人の状態に応じた暮らしの過ごし方を検討し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の行動や生活リズムの情報共有を行い、利用者一人ひとりの一日の暮らし方を把握し、職員が関わりを持つ中で心理面や、出来る力の気付きを話し合い、介護計画に反映させるよう努めている。	家族の意向を聞き取り、利用者担当職員の評価を基に全職員で検討し、計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録はパソコンで行い、介護計画に沿って変化なども記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が、利用者一人ひとりの要望を把握するとともに、本人の生活状況がわかるよう、職員間で情報共有し利用者へのサービス提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの意向や要望に対し、通院や必要な送迎等出来る限り、柔軟に支援できるよう、その都度検討し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染症の流行により行うことが出来ないが、地域の方と関わりながら住み慣れた場所で楽しく、安心した生活を続けていけるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する医療機関で診療が行えるようにしている。ご家族や、医療機関と連携し症状や状態に合わせた適切な治療が出来るよう支援している。	半数ほどの利用者は協力医療機関の往診を受けている。かかりつけ医や専門医を受診する時は、健康に関する情報を書面で主治医に渡している。往診と通院はパソコンで個別に記録している。	

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から体調変化に注意し、協力医療機関の訪問時に情報を提供している。また、電話での状態報告や相談を行い、必要に応じて受診等が出来る体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活の様子や、心身状況等を医療機関と情報共有している。定期的に医療機関と連絡を取り、状態を把握し早期に退院ができるよう調整を行っている。また、ご家族からの相談等を聞き、不安の軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を最優先して行っている。重度化した際には、気持ちの変化に注意しながら状態の説明等を行い、最良のサービスを提供できるよう努めている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、常時医療行為が必要になった場合は対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りも行っている。年1回、看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、定期的に研修を行い、知識や技術の向上に努めている。緊急時のマニュアルを各ユニットに設置し、迅速かつ適切に対応がとれるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回以上避難訓練を行い、火災や自然災害等の発生に備えている。また、地域住民にも訓練に参加してもらい、災害時の対応などを話し合っている。	感染症流行のため、日中の火災を想定した自主訓練を7月に実施し、年度内に夜間想定訓練も予定している。地震発生時の対応についての座学を基に、ケア別の個別対応についても話し合いたいと考えている。職員の救命講習は計画的に進めている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に捉え、今までの生活習慣を継続出来るよう支援している。利用者に声を掛ける際には特に注意し、相手に不快な思いをさせないよう努めている。	利用者への声かけの仕方は、入社時のオリエンテーションや定期的に行う接遇の研修、身体拘束に関する研修で確認している。記録類はIDとパスワードで管理されたパソコンで行うためプライバシーの確保がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、声掛けや場面づくりを工夫し、自己選択や自己決定ができるような対応をとっている。意思疎通が困難な方には、表情や行動から読み取り行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調などに留意し、その日の過ごし方を一人ひとりを話し合い、出来る限り本人の思いを尊重した過ごし方が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着てもらったり、髪の毛のセットの仕方や化粧を継続して行ってもらっている。備品の買い物支援や、ヘアカットの援助を行い、好みのおしゃれが出来るよう支援している。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで同じメニューを食べ、必要に応じて食事介助等を行っている。利用者と職員会話をしながら和気あいあいと食事の時間を楽しんでいる。準備や片付けを一緒に行っている。	お楽しみメニューとして月に1度、利用者の好きな食べ物を献立に組み入れ、昔から付き合いのある市場の魚屋から刺身を買って来たり、鍋や栗ごはんを食べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯の状態や嚥下能力によって個別に刻んだり、ミキサー食にして食べやすいよう提供している。定期的に提供している水分補給についても、その日の気温や、本人の状態を観察し、適切に水分補給が出来るよう対応している。また、体重の変動や栄養状態を医師と相談し栄養の確保が適切に行えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨き等の口腔ケアの声掛けや介助を行い常に清潔に保てるよう支援しています。また、必要に応じて歯科医師に診てもらい対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。本人の心身の状態に応じた適切なトイレの声掛けや誘導を心掛け、排泄の自立に向けて支援している。声を掛ける際や、失敗時にも、自尊心に配慮するよう努めている。	トイレで排泄をすることができる利用者が多く、排泄チェック表を確認し、状況を見て声かけをするようにしている。利用者が自らできることを継続して行えるように工夫して自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、排便の間隔や、量や形状を把握し、水分量の調整や乳製品の提供、体を動かす等の便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の入浴者は決めさせてもらっているが、その日の気分や体調を確認し、柔軟に対応できるよう努めている。一人ひとりの好みの温度の違いや、湯船につかっている時間などを把握し、心地よく入浴してもらえるよう心掛けている。	入浴は同性介助を原則とし、入浴順などの希望があれば対応している。また、歌をうたった後などの気分が高まっている時に入浴の声かけをして、入浴が楽しいと思ってもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりに合った活動や休息を行い、生活のリズムを整えるよう取り組んでいる。夜間帯は、穏やかに過ごしてもらえるようリラクゼーション音楽をかけ安心してもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック表の作成や、薬ケースに個人別に整理して、職員が内容を把握できるように行ない、処方変更等があった場合は、状態観察を行うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事を活かし、力が発揮できるよう、家事等に参加してもらっている。やりがいや、生きがいを感じてもらおう感謝の気持ちを伝えている。季節の行事のなかで楽しみや喜びを感じてもらえるよう工夫している。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F ひまわりユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事等を行ったり、ご家族の協力を得つつ、日常的な外出支援に取り組んでいるが、感染症流行中は、近隣を散歩したりし、閉塞感を感じる事の無いよう工夫している。	感染症が流行しているものの、日常的に近所の散歩や敷地内の花壇に花を見に外出している。感染症対策をしっかりと行い、余市の海や紅葉を見に朝里ダムヘドライブに出かけるなど、季節を味わうことができるような外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望で少額を手元に持っている利用者もいる。ご家族より、預り金として預かり、利用状況を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、施設の電話を使用してもらい、電話の取り次ぎを行っている。利用者所有の携帯電話を持っている方は、自由に使用してもらい、ゆっくりお話が出来るよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや、室温等に配慮し心地よく過ごせる環境づくりを行っている。季節ごとに利用者と一緒に飾りを制作したり、行事の写真や飾り会話が弾むよう工夫している。利用者テーブルに季節のお花を飾り四季を感じていただいている。	壁には職員と利用者が一緒に制作した季節の装飾や今後開催を予定している行事のポスター、行事の際に撮った写真などが掲示されている。居間には自由に読むことができる北海道の情報誌を用意して、利用者の行きたい所や食べたい物を話題にして楽しく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテーブル席、ソファーや金魚の水槽等、同じ空間でも一人ひとりが居心地よく過ごしてもらえるよう配置し、テレビや音楽鑑賞、家事の手伝いなど、個別に過ごしてもらえるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具や、馴染みのものを使用していただいている。居室には、本人の若い頃の写真や、ご家族の写真、思い出のある物を飾り、温かみのある環境づくりを行っている。家具の配置等も工夫し、安全面にも配慮した空間づくりに取り組んでいる。	防火カーテンが備え付けであり、利用者はこれまでの生活で使い慣れたタンスなどの家具、仏壇を持ち込み使用している。ぬいぐるみを置き、動物のポスターを掲示したり、折り紙や習字など利用者の作品を飾ることで居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸惑いや不安を感じることなく過ごせるよう、居室やトイレの場所が分かるよう表札や、目印を付ける工夫をしている。また、通路には手すりを設置し歩行が安全に行えるよう取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘 (2F あさがおユニット)		
所在地	小樽市住吉町5番22号		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0172000655-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりの丘は、小樽総鎮守の住吉神社の側にあり、近所には小樽運河やオルゴール堂など小樽を代表する観光名所があり、大変賑やかな地域にあります。また、市立病院や協会病院といった総合病院が徒歩圏内にある為、安心して生活が出来る環境になっています。一人ひとりの意思や尊厳を大切に、家庭的で楽しく、安らぎのある生活が送れるよう、利用者様と職員が共に支えています。利用者様、そのご家族の方がいつも安心して生活が送れるよう、職員一同サービスの向上に努めています。また、津波や土砂災害の想定エリアではなく、安全な立地になっており、地震や火災等の災害発生時の避難所が徒歩数分の場所にあります。今年度から、外国人の特定技能実習生受け入れを予定しており、介護人材不足を抱える地域のモデルケースとして取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに社員5原則を掲示し、職員が出勤時に読み上げ、確認出来るようにしています。また、適宜行うカンファレンスの中で話し合い、実践出来るようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際に、町内会や地域住民に参加の声掛け等を行い、参加、交流して頂いていましたが、近年は新型コロナウイルスの影響により、ほとんど交流できていませんでした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し地域やご家族、関係機関等と意見交換の場を設けるのですが、コロナ禍の為開催が思うように行なえていません。その代わりに、電話や手紙等の手段により関係各所と連携に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスが流行する前は、年6回(2カ月に1回)運営推進会議を実施し、ご家族や、町内会、行政職員の方に参加して頂き、意見や助言を参考にサービス向上に努めていました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と密に連絡を取り、事業所の実情を都度報告、相談しています。それに対する、助言等を実施しています。 (例えば、介護職員不足を解消するなめには等)		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を中心に、年2回、研修会を定期開催しております。日常の会話の中でも、職員間で意識の共有を図っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を中心に、年2回、研修会を定期開催し啓発活動を取り組んでおります。日常の会話の中でも、職員間で注意し合える関係性作りに取り組んでいます。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、職員研修で学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に対し、契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明をしています。また、不明な点があった場合は随時説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは生活の中で都度、意見をお聞きしております。ご家族に対しては面会時や電話連絡で意見を伺っております。意見のあった内容については早急に対応出来る体制を取り、対応しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談の機会を設け意見を伺っております。その他、月一回の職員会議で意見を伺っています。日常的に職員が意見の言い易い環境作りを心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6か月に一回以上は個別の面談を行い労働環境についての意見交換を行なっています。ミーティングの中においても意見交換を行い職場環境整備に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修会へ参加を促し、出来るだけ多くの職員が参加出来るよう調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内GH協会の親睦会等に参加し、意見交換等で親睦を深めていました。また、姉妹法人と、合同の行事や研修等を通して交流の機会を作っていました。今は、新型コロナウイルスの影響で行えていません。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始当初においては、緊張等があるので関わりを多く持ち、表情や言動から不安や困り事がないかどうかを早期に気が付けるように心掛け、良好な関係が築いていけるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に、管理者や計画作成担当者が面談等を通して生活に関する要望を聞き、それに沿った支援を行っております。また、生活担当制を用いており、担当者からもご家族に対して要望の聞き取り等を行い、早期に信頼関係が築いていけるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等を聞き、早急に改善が必要なところから対応するよう努めております。また、日々の観察の中で見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの意欲や、残存能力に応じた家事等行っていただき、生活を共にしていると思っただけよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響を受ける昨今、面会の際には、ご本人とご家族が落ち着いた雰囲気でお話ができるように工夫しております。また、生活の中での思いや要望等を報告し、ご家族と情報共有をするよう心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが流行する前は、入居前から通っていた、お店や美容院、病院等の馴染みの関係性を尊重し、入居してからも通えるよう支援してありました。また、友人等に電話連絡が出来るような環境作りもしてありました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動等で利用者様同士の親睦を図ったり、日常生活においても、コミュニケーションを促進し、一人ひとりが孤立化しないよう取り組んでいます。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、困り事や相談事などがあれば、いつでも来所してもらうように声を掛けています。ご本人やご家族を出来るだけ支援していけるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の担当制をとっている為、それぞれの担当者を中心に、生活に対する意向や希望の把握に努めています。また、ご家族からも意見や要望をお聞きしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から出来るだけ詳しく生活の様子をその方の関わりのあった方に聞き取りをしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状態を把握し、利用者様の表情や言動などを介護記録に都度記録し、現状の把握を行っております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様一人ひとりの態観察を行い、変化があった際には早急にカンファレンスを開催し、課題の改善に向かう介護計画の立案を行っております。その事について、ご家族からも意見や要望を聞いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症ケア記録、KCISで記録やデータを蓄積しており、それを基に、職員間での情報共有や介護記録の見直し等に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は新型コロナウイルスの影響もあり、そのような機会がない為、取り組みはありませんが、今後そのようなニーズがあった際に対応したいと考えております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス流行前は、保健所に依頼し、ノロウイルス、食中毒の勉強会を利用者様と職員で共に学んでいます。また、町内会の集会等に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望があれば、入居前からのかかっていた病院へ受診等が出来るよう支援しています。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態を常に観察しており、変化や異常があれば、看護師、管理者、施設長に報告、主治医に上申し、適切な医療が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、心身の状態の報告はもちろん、日常生活の様子について事細かく報告しております。また、入院中に面会や電話にて、入院中の状態についてを確認しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対し、重度化した場合の対応について説明しています。重度化した利用者様や、ターミナルケアについては、ご本人ご家族の意向をしっかりと確認し、主治医を含めて共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、研修会等で緊急時に迅速に行動をとれるよう取り組んでいます。また、事故発生時に速やかに管理者や看護師へ報告できる連絡体制を整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上日中、夜間帯を想定した避難訓練を実施しています。災害時等に速やかに避難できるよう取り組んでいます。新型コロナウイルスの流行前は、地域の方達にも訓練の参加を促し、協力体制の構築に努めていました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の社員5原則の読み上げにより、一人ひとりの利用者様の生活歴や、性格、認知症の状態に合わせて柔軟に対応できる様にしています。特に言葉遣いに気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ご自身の思いや、希望を伝えやすい雰囲気を作り、日常生活のあらゆる場面で、自己選択、決定ができる機会を多く作るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の社員5原則の読み上げにより、一人ひとりにとっての生活リズムや過ごし方を大切にし、可能な限り、利用者様のご希望に沿える様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルス流行前は、利用者様と一緒に着替える洋服を選んだり、美容室に行きたいと希望された方に対しても、馴染みの美容室を利用して頂くよう支援していました。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材を使用し、四季を感じて頂いたり、利用者様の状態や、好みに合わせて食べやすい物を提供し、食事を楽しめる様なコミュニケーションを図っています。また、準備や片付けが可能な利用者様には行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾患や栄養状態を把握し、食事量や水分摂取量の記録を取り、観察を行っています。また、嚥下機能の低下等の状況に応じて、刻み方やトミ剤を使用する等、形状、形態の検討も都度行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが出来るよう努めています。口腔内の異常や義歯調整等の不具合があった場合は、早期に医療機関へ連絡をして、受診や往診が出来るよう対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態に配慮し、排泄記録をもとに、一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄の確認を行い、日常生活動作(運動)や、水分摂取と乳製品の活用等により、自然排便が出来るように支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個別で対応しています。入浴が好まない方については、声を掛けるタイミング等を工夫しながら行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にゆっくり休んで頂けるよう、日中は可能な限り活動して頂いていますが、利用者様の状態や体調に配慮しながら適時、休息をとってもらよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬剤情報は個別に管理しています。副作用等の症状があった際には、主治医に報告を行っています。服薬時には誤薬防止の為、声だしと、職員2名の確認等で、安全に服用出来るよう務めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションを1カ月に1回以上計画し、生活にメリハリや、楽しみを持っていただくよう取り組んでいます。		

グループホームひまわりの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F あさがおユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行前までは、利用者の希望に沿って、外出や外泊が出来るようご家族と協力しあい、支援していました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人ひとりのお預りしているお金の中から可能な範囲内で使用できるよう支援しています。金銭の所持を希望される方には、ご家族様と相談のうえ、数千円程度の所持をしていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族、知人から希望のあった際には、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾の変更等で配慮しています。また、共有スペースのテレビの音量、照明の明暗、温度、湿度などの調整にも気配りを行なっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりが、その時の状況に合わせて過ごしたい所で過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は、ご本人の長年使い慣れた馴染みの物を出来るだけ使用してもらっています。落ち着いた雰囲気的空間になるように工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは、物が乱雑にならないように整理整頓を心掛けています。居室入口には個々の表札を付け、居室の場所を分りやすく工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームひまわりの丘

作成日：令和 4年 1月 8日

市町村受理日：令和 4年 1月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を書面にて開催していたため、事業所からの報告事項が主になり、家族の意見や質問を聞く機会が少ない状況になっている。	今後も感染症等により、運営推進会議の開催が困難な状況が続くと想定し、参加対象になっている家族や関係機関に対して、運営に関する意見や質問等の聞き取りを事前に行うようにする。	2か月に1回運営推進会議を開催しているため、その前月に、運営に関する意見を聞くアンケートを実施する。そこで出た意見に対しての結果を運営推進会議の議事録として、運営状況の報告と一緒にご家族へ送付するよう取り組んでいく。	6か月
2	10	感染症予防により面会制限をしている為、利用者一人ひとりの生活の様子を家族に伝えきれていない状況になっている。	利用者個別のお便りを作成し、定期的に家族へ送付する。	現状通り電話連絡等で生活の様子を伝えるとともに、ホーム便りとして年4回(春・夏・秋・冬)利用者個別の、写真やメッセージを入れたお便りを家族へ送付するよう取り組んでいく。	3か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。